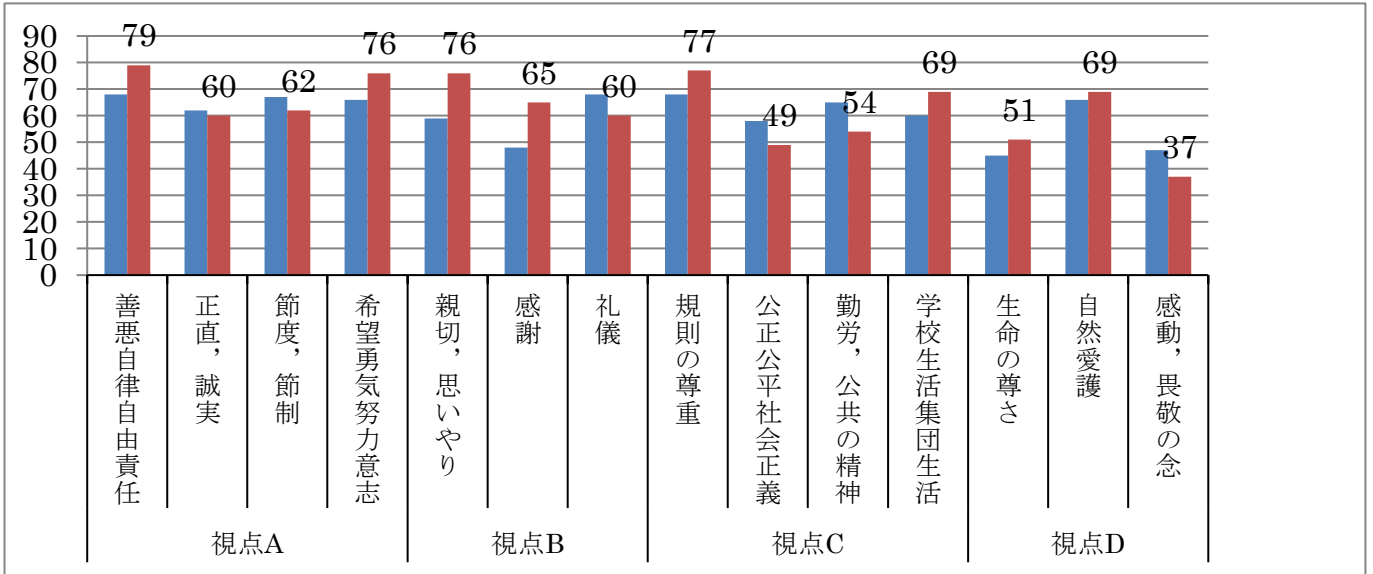


令和元年度東栄小 道徳性検査結果と分析

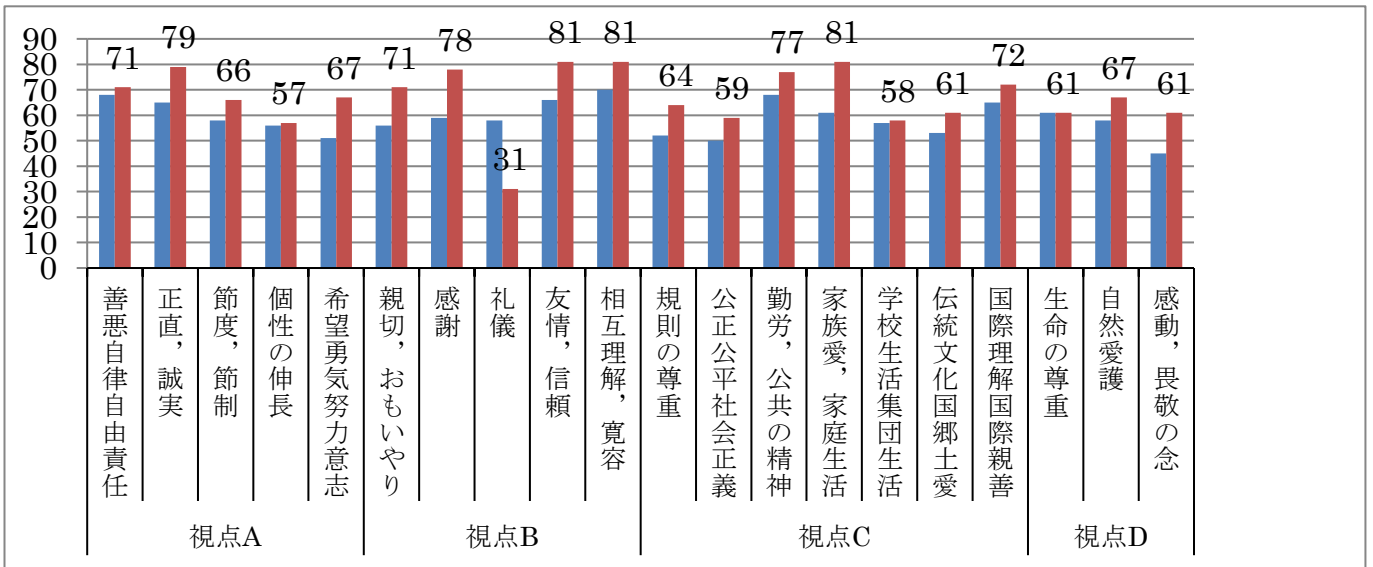
令和元年9月27日

◎今年度は、2年生と奇数学年のみ道徳性検査を実施しました。検査結果をグラフ化し、各学年の内容項目について全国平均値■と東栄小■を比較しています。

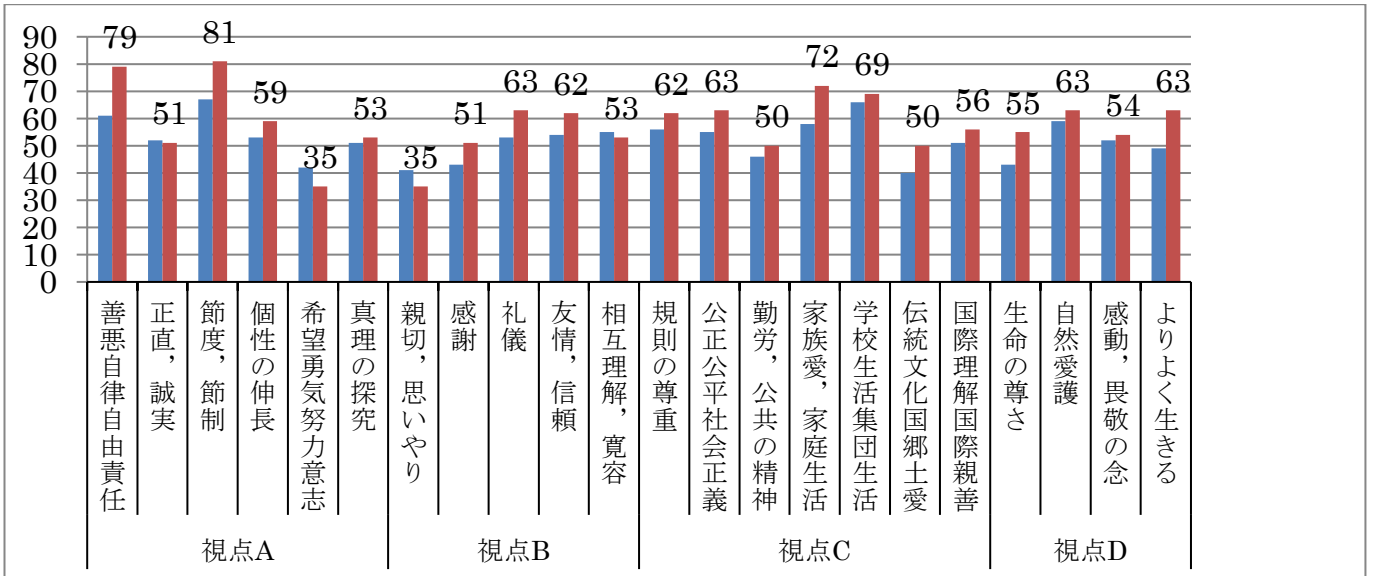
【2年生】



【3年生】

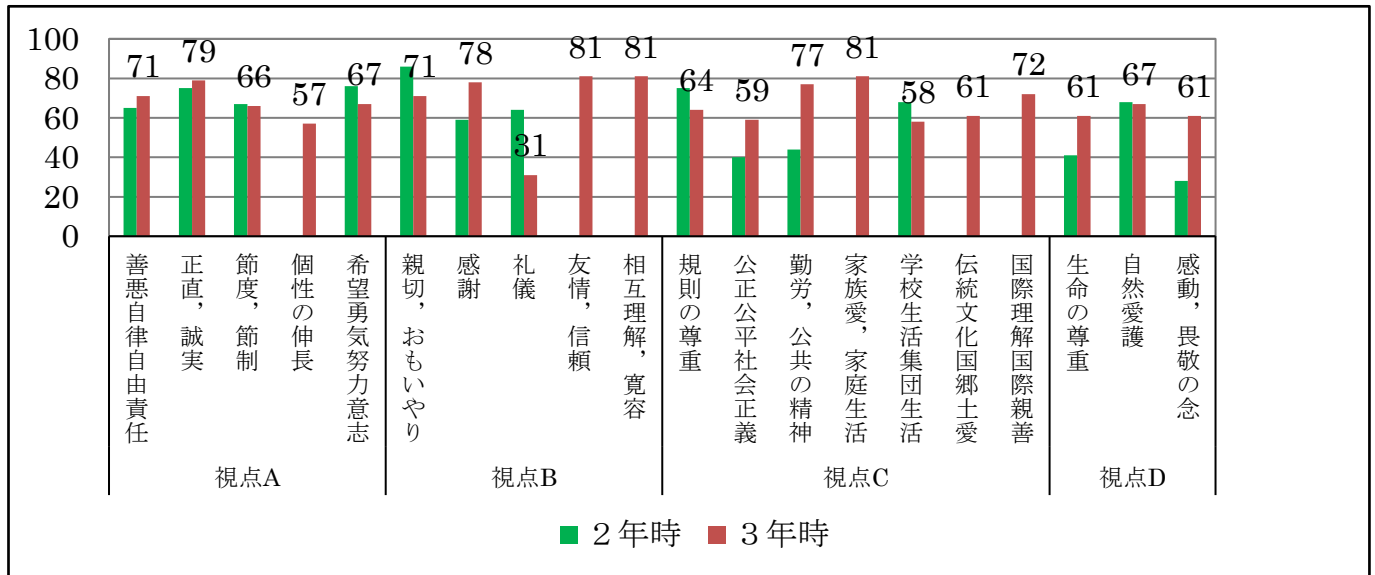


【5年生】

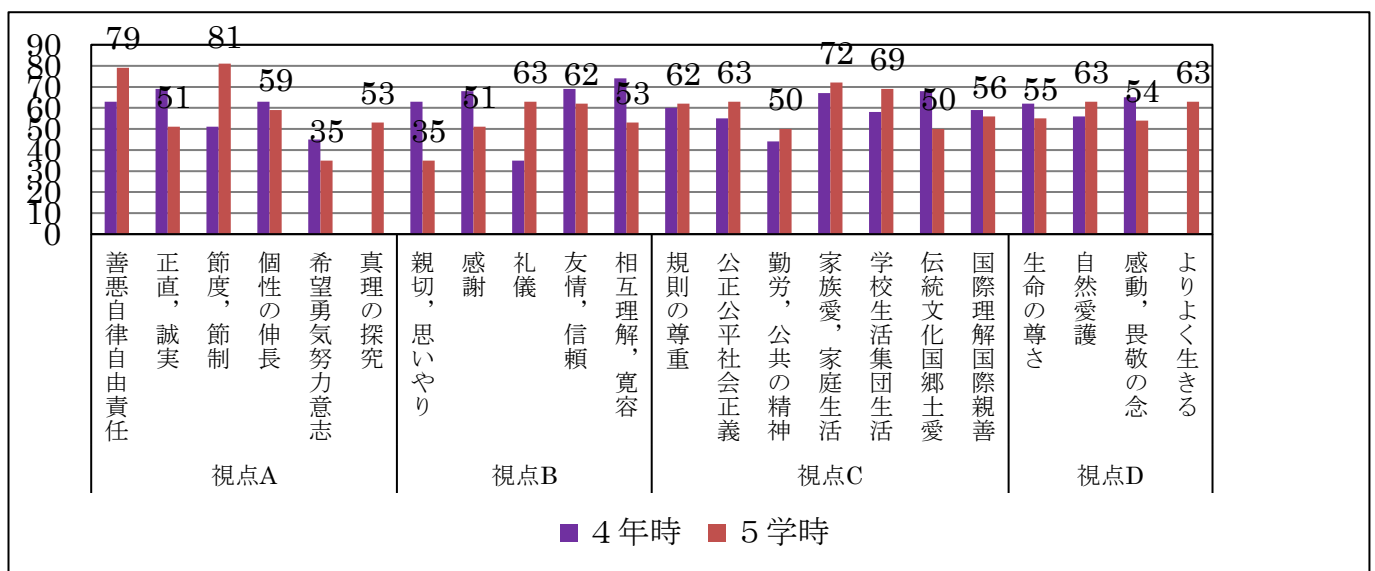


【別紙】学校だより9月号

【3年生（2年生の時）と比較】



【5年生（4年生の時）と比較】



視点A：「主として自分自身に関すること」

視点B：「主として人との関わりに関すること」

視点C：「主として集団や社会との関わりに関すること」

視点D：「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」

【分析と今後の取組】

今年度は、昨年度の道徳性検査を受けていない2年生と奇数学年の3年生と5年生で道徳性検査を実施して本校児童の実態把握を行いました。

昨年度は、2020年度から本格実施になる道徳科の授業準備のために、校内研修での道徳の授業研究や道徳教育推進リーダーによる指導、道徳の授業で公開研究会「授業語る会」など、道徳の授業づくりや評価の考え方を重点にして取り組んできました。その成果として、全国平均値と東栄小を比較したとき、多くの価値項目で子どもたちの心が育っていることが見取れます。また、3年生と5年生については、昨年度の結果と比較すると、前年度に落ち込んでいた価値項目の改善が多く見取ることができます。一方で課題は、「希望・勇気・努力・意志」や「親切・思いやり」など、子どもたちにとって身近な価値項目が各学年共通して下降傾向にあることです。

今後は、この結果を踏まえて、道徳の授業を中心としながら、学校全体の教育活動の中で取り組みます。

各学年のよさや課題を日常的に声掛けしたり授業や行事等で指導したりするなどして、子どもたち一人ひとりの行動を認めるというスタンスでフィードバックしながら、子どもたちの豊かな心の育成を目指します。

ぜひ、ご家庭でも課題が見られる点などを意識して、励ましなどの声掛けをしていただくと相乗効果でより心の成長につながります。ご協力をお願い致します。